

特定疾患治療研究事業から見た亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) の発生状況(更新情報)

研究分担者： 国立感染症研究所(感染症疫学センター) 砂川富正

図1: SSPE発病年(2003年度以降にデータ入力のあった者:n=132)

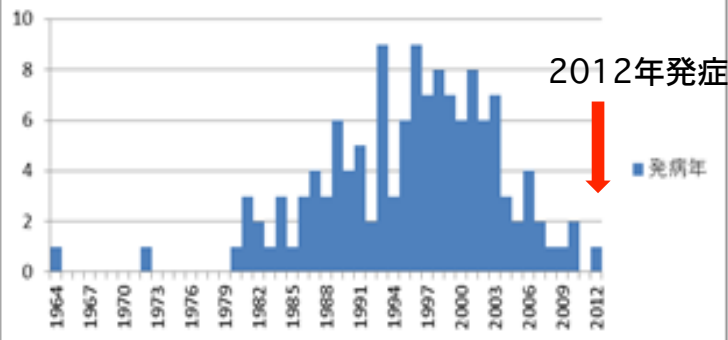
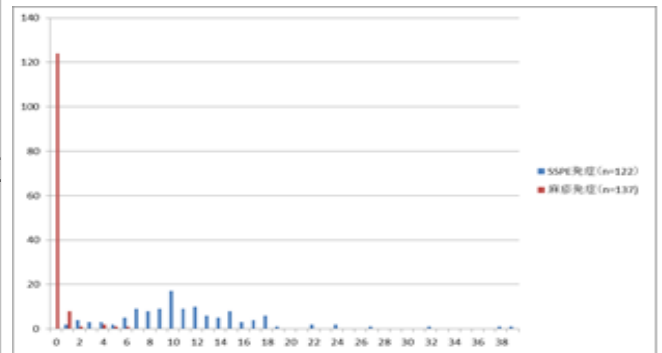
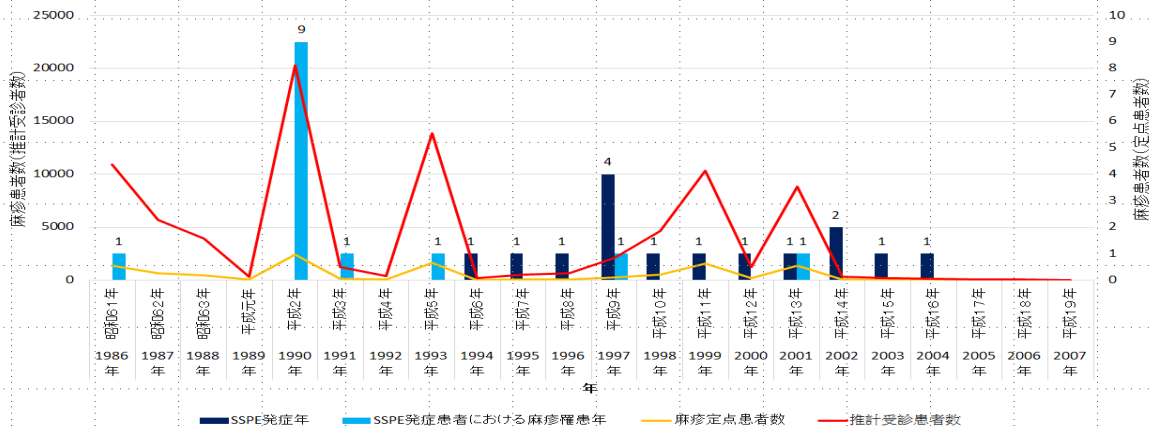


図2: SSPE及び麻疹の発症年齢



SSPE発症年齢中央値11.5歳(1-39歳)
麻疹発症年齢中央値0歳(0-6歳)

(暫定結果) 沖縄県の麻疹患者数(推計受診者数)とSSPE発症患者の麻疹罹患年



1986年～2004年(19年間)沖縄県における麻疹罹患患者10万人あたりのSSPE発症数 **16.3人/10万人(暫定)**

解説

1. 日本は2015年3月に麻疹排除認定を受けた。SSPEは特定疾患治療研究事業による医療費受給の対象疾患であり、今後の監視がより重要である
2. 2012年9月に新規SSPE発症者の登録があった(1988年生の14歳男性)
3. 症例の多くは要全面介助の状態であり、かつ在宅療養者も少なくない
4. 沖縄県内麻疹罹患患者10万人当たりのSSPE発症数は16.3人と推定された
5. SSPEの新規発生は麻疹排除の維持により予防することが出来る
6. 難治性疾患であり、疫学状況、臨床情報などの把握が診療上も重要